森林管理署長等が語る

会津森林管理署長
田　村　耕　司

＜はじめに＞

会津森林管理署は、福島県西部の会津若松市に所在し、庁舎の近くには鶴ヶ城があり、また、庁舎からは日本百名山である磐梯山を望むことができます。

会津若松市は、四方を山に囲まれた会津盆地に位置し、夏は暑く、冬は積雪が多い地域となっていますが、近年、少雪だったところ、2024～2025 シーズンは統計を取り始めてから最多の積雪を記録し、交通が乱れたところです。

鶴ヶ城

当署の管理区域は、いわゆる会津地域で、会津若松市、喜多方市、下郷町、南会津町、北塩原村、西会津町、磐梯町、猪苗代町、会津坂下町、柳津町、三島町、金山町、昭和村、会津美里町の２市 10 町２村にまたがる 95.3 千 ha の国有林を管理しています。

管内の国有林は、３分の２がブナ、ナラを主体とした天然林となっています。人工林は、主にスギ、カラマツが植栽されており、10 齢級以上の森林の面積が 14 千 ha（約 66%）となっています。

＜会津地域の紹介＞

さて、会津地域と言えば、歴史、文化、グルメ、観光地など、いろいろと連想されると思いますが、会津地域に来て一年が経ちますので、若干紹介させていただきます。

（歴史・文化）

柳津町には、日本三所の虚空蔵菩薩の一つに数えられる福満虚空蔵菩薩をご本尊とする円蔵寺があります。807 年に開創され、ご本尊は弘法大使により刻まれたとされ、「赤べこ」発祥の伝説は、このお寺の再建にまつわるものとされています。

円蔵寺

（グルメ）

先ずはお酒です。酒類総合研究所による 2024 酒造年度（2024 年７月～2025 年６月）に製造した日本酒の品質を競う全国新酒鑑評会において、福島県

は兵庫県と並び16 銘柄が金賞を獲得し、その 16 銘柄のうち９銘柄の蔵元が会津地域にあり、当署の近くにも蔵元があります。

高遠そばと山都そばの食べ比べ

炭酸水の井戸

次は麺類です。会津地域には、喜多方ラーメンを始め、会津山塩ラーメン、西会津味噌ラーメンなど個性的で美味しいラーメンが揃っています。また、蕎麦は、「辛つゆそば」である高遠そば、「寒ざらしそば」である山都そばなどがあります。

最後に炭酸水です。金山町には大塩天然炭酸水と呼ばれる炭酸水が汲める井戸があります。古くから薬泉として評判になっており、旧会津藩士が慢性胃腸病、糖尿病、便秘の妙薬として近県の薬店に卸していたとの話もあります。

（観光地）

会津地域と言えば磐梯山や猪苗代湖、スキー場を思い浮かべる方も多いかと思います。猪苗代湖は、本年７月 15 日に「ラムサール条約」に登録されました。国内で 54 カ所目、福島県内では尾瀬に続き２カ所目になります。スキー場利用客については、磐梯猪苗代圏域が 59 万 4,925 人（前季比 11.6%増）となっており、これは前季より降雪量が多く、営業日数が延びたことが主な要因とみられています。また、スキー場のリフトやゴンドラを利用してスノーシューを楽しむこともできます。

猪苗代湖のしぶき氷と磐梯山

裏磐梯のイエローフォール

西大巓のスノーモンスター

なお、管内の国有林には、「日本美しの森 お薦め国有林」が５カ所あり、「沼沢湖自然観察教育林」（金山町）は、猪苗代湖と同様に湖水浴を楽しむことができます。

沼沢湖自然観察教育林

達沢不動滝風景林

＜会津森林管理署の取組＞

会津森林管理署の取組を２点、紹介させていただきます。

（花粉症対策）

会津森林管理署では、「森林整備の計画的な推進」の一つとして、再造林にあたり花粉症対策として、「森林土壌」などを参考にスギ以外の樹種（カラマツ）への転換を行っています。これは会津地域のスギの種苗配布区域がⅡ区となっており、現在、スギ少花粉苗やスギ特定苗の供給が受けられないためです。今後、スギ少花粉苗やスギ特定苗が順次供給されるようになれば、適地適木を念頭に再造林を進めていきたいと考えています。

コンテナ苗による植栽

21 た林小班（3年生）

（PCB 廃棄物の処理）

橋梁の塗膜等の低濃度 PCB 廃棄物については、PCB 特別措置法により 2027 年（令和９年）３月 31 日までが処分期間とされています。このような状況の中、会津森林管理署では、昨年度、横向林道（２号橋）改良工事として、橋梁の塗膜の剥離、撤去、再塗装を行いました。この工事では、橋梁までの林道が崩壊等により通行できないため、資材等の運搬がモノレールとなりましたが、工期内に工事を終了することが出来ました。

橋桁（塗膜剥離剤塗布）

橋桁（再塗装後）

なお、工事期間中は、会津労働基準監督署と合同パトロールを行い、仮設工などの確認を行いました。

また、この PCB 廃棄物の処理は、関東森林管理局内では初めての取組となったため、現地検討会も行われました。

合同パトロール

現地検討会

## ＜おわりに＞

今回、執筆の機会をいただきましたので、1954 年（昭和 29 年）9月 25 日に発生した青木航空機の事故について紹介させていただきます。

1954 年（昭和 29 年）5月 10 日、北海道を通過した台風第５号は、支笏湖周辺の国有林に甚大な風倒木被害を発生させました。このため、風倒木被害の実態把握虫害防除の基礎資料とするため、航空写真を撮影することとなりました。その後、航空写真を撮影するため、9月 25 日 17 時前、青木航空㈱（２名）、アジア航測㈱（２名）、（一社）日本森林技術協会（１名）、林野庁本庁（１名）の体制で羽田空港をビーチクラフト C18 双発機で北海道に向け出発しました。折しも、翌 26 日に台風第 15 号（洞爺丸台風）が鹿児島県大隅半島に上陸、当初は台風第 15 号に先んじて北海道の飛行場に到着し、台風第 15 号の通過を待つ予定だ

追悼碑

ったところ、台風第 15 号の意表を突く速度での北上と、それに伴う前線の発達により前進を阻まれ、引き返したところ消息を絶ち、10 月９日、下郷町の結能峠付近の国有林に墜落しているのを発見され、捜索隊員により６名全員の死亡が確認されました。

３年後の 1957 年（昭和 32 年）に現地に追悼碑が建てられ、慰霊祭が執り行われました。当時の写真を見てみると、追悼碑周辺の伐採跡地にはカラマツが植栽されているように見えます。くしくも、今年度の生産事業は、追悼碑周辺でも行われています。戦後間もない時期に、風倒木被害の全容把握等に情熱を傾けていた先輩たちのご冥福をお祈りするとともに、会津森林管理署といたしましては、着実な国有林材供給に努めてまいります。